

あけましておめでとうございます

元日の清々しい青空の下、皆で初詣。
風が少しひんやりと感じられましたが、あたたかな日差しが降りそそぐ屋上から
「今年も良い年になりますように」と願いました。



緑愛会だより

第103号

〒190-0161

東京都あきる野市入野811

社会福祉法人 緑愛会

指定介護老人福祉施設

あたご苑

あたご苑 ケアハウス

このたび石川県能登地方を震源とする大規模な地震により犠牲となられた方々に、謹んでお悔やみを申し上げますとともに、被災されました皆様に心からお見舞い申し上げます。一日も早い復旧と皆様のご健康を心からお祈り申し上げます。

新年のご挨拶



常務理事

奥秋 利郎

明けましておめでとうございます。

今年、令和6年は昭和であれば99年目にあたります。昭和の初めには世界恐慌のあおりを受けて不況に陥り、第二次世界大戦の悲劇を経験しましたが、戦後は急速な復興と、朝鮮戦争に伴う特需を経て、高度経済成長期であった68年には国民総生産で世界第2位の経済大国となりました。80年代には米国との貿易摩擦が激しくなり、政府は円高対策として利下げを進め、90年代にはバブルが崩壊し雇用・設備・債務等リストラを迫られた企業が急増したのです。現在に至る経済力の停滞は「失われた30年」とも呼ばれています。新しい年は、我国が30年あまり続く経済の停滞から抜け出せるかどうかの岐路にあると考えます。昭和に築いた「経済大国」の幻想を捨て、世界で再び飛躍するにはどうすればよいのでしょうか。

日本は今後高齢化で医療や介護など社会保障の負担が増すこととなります。「革命的な転換は欲しない、国民的な選択が安定と停滞を生む」。変わらない社会は良いことに思えますが、成長への道を阻むと考えます。改革をしないで支援ばかり訴えるのは甘言に他ならないと聞きます。変化を受け入れ、一人ひとりの力を集めて成長する努力をしましょう。今年こそ！

新年のご挨拶



施設長

奥秋 有記

新年おめでとうございます。

厚労省の試算によると、2040年には65万人の介護職員が不足されると発表されており、加えて、22年度は介護で働き始めた人を辞めた人が上回り、6万人以上が離職しております。さらに、あきる野市は2040年までに人口が減少するなか、高齢者は増加する見込みとなっており、益々、社会福祉の担い手確保が厳しく、困難な課題となっております。

昨年度から開始した1号特定技能の雇用者は、今年度で9名まで増員する予定であり、当苑における職員不足解消の軸となっております。本年も、更なる国際化を推進することで、利用者様に安定したサービスの継続が約束できると考えております。

そして、コロナ禍の生活から、少しずつコロナ前の状態に戻り、今では目の前の景色が元に戻りつつあります。あたご苑でも、外出の機会を設け、地域との繋がりを回復することにより、少しずつではありますが、利用者様の楽しみが増加しております。外出先で、楽しそうに談笑される利用者様を拝見した時に、マスクを買えなかった時期が遠い昔のように感じました。「コロナ以前の生活にそのまま戻すのではなく、進化させる必要がある」との方策の基、今まで以上に楽しみを増やす提案をまいりますので、どうぞご期待ください。

本年も、利用者様をはじめ、ご家族様、地域の皆様、たくさんの笑顔と幸せが訪れるよう、社会福祉に職員一同、全力で取り組みますので、よろしくお願いたします。